

姫路支部だより

H I M E J I S H I B U D A Y O R I

1

2017 January No.20



- 1 12月の活動報告
- 1月の活動予定
- お知らせ
- 2 姫路建築探訪
- F.41-V.18 廣峯神社
- 福岡 憲昭・山本 薫





新年あけましておめでとうございます。
 本年は、支部創立60周年を迎える記念すべき節目の年となります。
 この一年の記念事業を通じてより多くの会員の皆様が相互交流できますことを願っております。
 また今年も支部だよりを通じて情報発信をしてゆきたいと思っております。
 どうぞよろしく願いいたします。

(公社)兵庫県建築士会姫路支部 支部長 西嶋 宣久

表紙写真 国指定重要文化財
 廣峯神社 拜殿
 (姫路建築探訪より)

12月の活動報告

- 12.10 (土) 支部忘年会(旬美)
- 12.15 (木)  CPD認定講習会
第9回構造学習会(姫路建設会館)
- 12.21 (水) 第19回環境デザイン研修会(山田家 南のイエ)
- 12.22 (木)  CPD認定事業
建築相談(姫路市役所)



■第9回構造学習会 報告

構造学習会を12月15日開催し、出席者9名でした。
 鉄骨構造の応力計算(水平力をD値法より計算)の続きと部材算定(大梁の検定)まで行いました。



(報告 石原 弘一)

1月の活動予定

- 1.18 (水) 第20回環境デザイン研修会(東影建築設計事務所)
模型体験講座(ものづくり体験館)
- 1.19 (木)  CPD認定講習会
第10回構造学習会(姫路建設会館)
- 1.26 (木)  CPD認定事業
建築相談(姫路市役所)
- 1.27 (金) 模型体験講座(ものづくり体験館)

■忘年会 報告

日時:平成28年12月10日(土) 18:30~20:30
 場所:旬美 魚町店
 今年もたくさんの方に参加して頂き、事業の事や近況を語らい、大変盛り上がり楽しい時間を過ごす事ができました。



(報告 上田 達也)

お知らせ

- 兵庫県立大学との協同講座開催
 日時:2017年2月4日(土) 15:00~17:00
 講師:三田村 哲哉 先生(兵庫県立大学環境人間学部・准教授)
 内容:「ドームの歴史」
 (詳細は別紙をご覧ください)

名称：廣峯神社（ひろみねじんじや）

指定：国指定重要文化財（本殿、拝殿）

所在地：姫路市広嶺山 52

市指定文化財（表門、摂社・末社 附蛭子社神像1軀

創建：天平6年（734）

・庚申社棟札1枚）

【本殿の概要】

広峯神社は牛頭天王（ござてんのう）の垂迹の神社として広く信仰を集め、農業神としてここから分祠された神社も多い。京都の八坂神社（祇園社）は貞観11年（869）に当社から遷座したとされている。

現本殿は文安元年（1444）再興の建物で、正面11間、側面4間（庇を含む）の大建築である。

【拝殿の概要】

桁行11間の本殿に見合った大規模な拝殿で、本殿前に軒を接して建てられている。柱筋もほぼ本殿に合わせているが、東端を欠いて桁行10間となっている。平面は8間の身舎（もや）の四方に庇をつけ、正面に縁をつけたもので、入口以外の側まわりは腰壁をつけて、窓は吹放ちとしている。

姫路市文化財課ホームページより



随神門（表門 正面）



随神門（表門 背面）



摂社・末社



荒神社



拝殿（正面）



拝殿



藤井家跡（御師屋敷）



魚住家（御師屋敷）



本殿（正面）



本殿（背面）と9つの穴



黒田家跡（御師屋敷）



表参道（左：肥塚家、右：西脇家跡）

【感想】

平成29年の最初は「お正月らしく神社にしましょう。」と見学当日のお昼を食べながらの協議の末『広峯神社』に決定し、自動車で山道を登り駐車場に到着し舗装された上り坂を登って山門へ向かう。

私自身あまり目にすることがない木製の灯籠が山門の下で出迎えてくれる。

階段を上り随神門という山門を抜け振り返ると、随神門の間から姫路の山裾と空が姿を見せる。

まるで随神門を額にしたような見事な調和の素晴らしい風景を見ることができる。これも山の上に建立された故の産物であろうが、実に気持ちの良い眺めである。

随神門を潜り拝殿（国指定重要文化財）に向かう 一言『大きいなあ！』という言葉が口から洩れた。

正面が10間あるとのこと、そして柱が1間毎に設けられているため非常に柱の存在感が際立つ。

残念ながら、正面から拝殿の中には立ち入ることができなかったので、お参りの後拝殿の西側へ周り拝殿と本殿（国指定重要文化財）の間から本殿を正面を覗く、軒はこれまた1間毎の柱に支えられ本殿自体はきれいな「ベンガラ色」に塗装されている。

本殿の中を少しでも見ようとしたが、軒を支える柱に阻まれ横からは上手く見る事ができなかった。

本殿の北側へ回ると九つの穴が開いている。生年月日に応じた運命星によりお参りする穴が決まる。

面白い趣向に童心に帰ることができる。（実は参拝方法が間違っていたことが帰る寸前にわかり苦笑い）

この本殿の北側には、7棟の摂社、末社がありさらに奥の方に『荒神社』『磐座』『吉備社』があるというので、山道を歩く。途中にかつて存在していた『御師』の朽ち果てた居住跡を見ることができる。

足元には、茶碗などの陶器や瓦なども散乱している。崖下に人が居住しているような建物も見えて「あれは何だろう？」と好奇心が顔をのぞかせる。

少し急な山道を登り、息を切らせながら到着した狭い平地に『荒神社』『磐座』『吉備社』が鎮座していた。

唯一、浜縁が設けられている『荒神社』は全体を大きな屋根で覆われ大切に保護されている。

この平地から先へは行けないので、来た道とは違う道で本殿まで帰ることに。

この道が結構きつい、草や竹はきちんと刈り取られているのだが兎に角歩きにくい、気を抜くと滑りそうになる。日頃の運動不足か？色んな所に力が入り、色んな筋肉を使って下りていく。

途中黒田家跡があり、「先人はこの険しい山道を草鞋で駆け回っていたのかあ」と思うと頭が下がる思いである。黒田家跡から少し歩くと赤い日本瓦葺きの住宅が見える。

この住宅を上から眺めていたようだ。『御師』の中のひとつ『魚住家』である。残念ながら非公開の為に私有地内に立ち入ることはできなかったが、外観だけでも趣のある雰囲気が見て取れる。

この後は、道もきれいな本殿のある境内にスムーズに歩ける。休憩所で一服し山門を後にしパンフレットを片手に駐車場に向かう。パンフレットによると『御師』が居住していた住宅は50棟程存在していたようだが、現在は先程の『魚住家』と駐車場に行くまでにある『肥塚家』の2棟のみ。いかに昔は栄えていたかがわかる。歩く先々に〇〇家跡などの看板を見た。毎回の見学で思う事だがせめて半分でも残っていたら…と思うのはナンセンスか？

新年に相応しく 神社 の取材をしようと思学当日に決めた割には、ものすごく良い取材スタートが切れたのでは？と自画自賛の二人でした。

本年もよろしくお願いたします。

追記：『広峯神社』と以前見学した『随願寺』はハイキングコースで繋がっています。見学中でも山歩き装の方を見かけました。リュックにはクマ除けの鈴がぶら下がっていましたが…一度歩こうかという話もでしたが、身体を鍛えておかないとちょっと無理かなあ？